

驚懼一々と秀吉喜び義景出張へらん少。行時も精神性あら
えべううぞ。早く御邊奉へたゞく。秀吉此小諸止す。追うてまづ朝
倉勢を。嚴しく拒障稟ふさんふ。などう一日一夜かどへ盡盡らきざる事
あらづれ。ち豫少ひもや近江諸へ入らむ玉ふべく。軍うち起せられ。と
勧め申ち小伝營頼め。諸士一同小本トガ武畧を感じて大小称美し。
四月廿八日申時刻小判の頃。大將信長金を清め退る。これへ本
下が詔承ゆ。岡道本道二隊小乙と。モラ信長小遣ふ諸士へ森之
たまつ。佐内藏助に候。君を守護して山越小若狭の國へ當ひ玉へば。
柴田勝家坂井政尚池田信親蜂谷頼隆候。二毛余騎小て本道を
信長の押せし。小兵の役うる。旗當懐。長柄の槍など連
橋々とてお見返く。然れど小淺井長政へ軍慮小質へき大將されば。

我隊をうの小勢にて。信長の大軍を鑿ぐし。と顧て石山へ使者を遣
加勢を。古ミ申されぬま。頭如上人。も浅井と。隊標の觀うる。故
等兩小もうりがく。江戸に持ゆ。大房主衆へ下諭あらはせば。
源人紳士と。私集め。浅井小加勢せし。かう。長政大歎び號ミ。一
万余人の勢をりつて。鐵田退治の殺石と断截方僅や来ると侍幕
さう。時量さくおれ小鐵田付旗の方。翻々として。又。北きび。そらや信長
御參か。と諸所の山険谷間より。一同小祭起。矛路を避く。殺合を。
柴田勝家正魁小進を走り。渠係を見て。いさみ浪人紳士修治。
集塲と覺へ。ひで。疏散して道を用。名車つげと一喝叫び。槍
をうち振突。最後た右を烈火の像く。擣起く。馳廻。石山
門徒の一撃。柴田一個小突起ら。散乱す。木村へ浅井の軍を